

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292100078		
法人名	株式会社ヘルスケアナラシノ		
事業所名	グループホーム大久保		
所在地	千葉県習志野市屋敷3-1-12		
自己評価作成日	平成25年1月21日	評価結果市町村受理日	平成25年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成25年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

よく晴れて雲のない日には朝夕西側のベランダから富士山が望め、夜には幕張方面の夜景がとてもきれいに見える4階に位置しています。ホーム内の廊下は長く手すりも完備しているので、下肢筋力強化の歩行訓練に役立っています。入居者のみなさんは明るい方が多くレクではカラオケが人気で一人一人の持ち歌が決まっており、大きな声で歌って下さいます。特に力を入れている点は、出来る限り自分で出来る事を探し自分でやってみましょうと言う事です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人のデイサービス、有料老人ホームなどの入るビルの4階がホームであり、各事業所には看護師が職員として配置されており、普段から協力体制も出来ていて、利用者や家族の安心に繋がっている。医療との連携も良く取れており、家族の希望を汲んでターミナルケアも行った。また、外出の支援にも力を入れており、日常的な散歩の他、法人の応援を得て外食や季節の行事などで出かけている。開設2年目のホームであるが、職員は利用者の思いやできることを掴み、理念に沿ったケアの実践に日々努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	”自分で出来る事を見つけよう。そして続けていきましょう。”理念の基、職員そして入居者の方々にも実践して頂いている。	ホームの理念は管理者、職員で話し合って作られた。その理念に沿って利用者の出来ることを全職員で見だし、見守りのケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園内の掃除や夏祭りへの参加又、役員の方に推進会議へ参加して頂く等地域とのつながりを大事にしている。回覧板を回してもらい地域で実施している事をも把握している。	町会に加入し、利用者と共に公園清掃や夏祭りに参加している。近くの法人本部で行われる祭りには地域にも声をかけ、町会長や介護相談員などの参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に於けるイベントへ入居者と参加し地域の方々にグループホームがどういう所か理解してもらえる様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席頂いた方々の意見を尊重しサービス向上に努めている。	運営推進会議は町会長、介護相談員、管理者、本部職員などのメンバーで2か月に1回開催されている。前回はホームの現状、介護相談員の体験談などの報告があった。	運営推進会議は利用者や家族、行政や民生委員などにも呼びかけ多様な参加者とし、ホームの課題に対する取り組みについても話し合うことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の介護サービス向上連絡会や地域包括支援センター主催の会議には必ず出席しており事業所の実情やケアサービスの取り組み等をも伝える機会を作っている。	地域包括支援センター主催の事業所対象の会議があり、行政との情報交換の場になっている。認定更新では市の担当窓口へ訪問すると同時に、ホームのパンフレットなども置いてきている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部の身体拘束に関する研修には必ず職員が参加している。内容は会議時にフィードバックし、全職員が拘束をしないケアに心がけている。ホームは建物の4階であるがエレベーターの乗降は自由であり、工夫しながら見守りに徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待防止関連法について研修を受け、日常何気なく話している言葉の中等にも虐待に値する言葉がないか注意を払い、防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用していた入居者の方がいた事で学ぶ機会を持てたので、これからの活用に向けて役立てたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたって利用者、家族の不安や疑問に感じている事等を出きるだけ聞き出せる様配慮し、十分な説明を行い安心して入居出きる様、努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開催し意見や要望を表せる機会を設けておりその他、面会時等常時意見、要望を聞き入れ職員で話し合い運営に反映させている。	家族会や訪問時などに家族の意見や要望を聴く機会を作っている。また、面会の少ない家族には電話で意見を聴いている。家族からの具体的な相談に対応し感謝されたこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会等で職員の意見や提案を述べる機会を設けており、反映させている。	毎朝の申し送り時や毎月のホーム会議などで職員の意見を聴く機会がある。ケアの内容やシフトに関し、職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働ける様、職場環境や整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量を把握し、研修を受ける機会やトレーニングしていく事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の連絡会や包括支援センター等で同業者と交流する機会を作っており、他事業所の取り組み等を把握しサービスの質の向上に役立てている。介護相談員の方の訪問時も情報収集している		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	住み慣れた家を離れ入居されるには相当、不安に感じている事と思われるので、まずここが安心して暮らせる所だという事だと分かって貰える様努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの家族の大変さに耳を傾けながら不安な事要望等を聞き出していき、信頼できる関係づくりに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がまず必要としている支援を見極め対応できる様努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者の関係は暮らしを共にする者同士として洗濯物をたんだり食器を拭いてくれたり等自然に家族の様な関係になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら家族と共に支援して行く様に対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力して頂きながらこれ迄大切にしてきた人やいつも行っていた場所等に行かれる支援に努めている。	知人が訪ねてきたり、買い物などで行きつけの店に立ち寄ることもある。墓参りや外泊などは家族の支援で行っている。また、家族への電話の取次ぎや手紙の投函などの支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席が気の合う方と隣同士になる様に配慮したり、話の苦手な方を明るい感じの方と隣合わせになる様に等一人ひとりが孤立せず支え合える様な支援に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握し、できる限り本人に合わせた介護ができる様に努める。	契約前の面接時に本人や家族の思い、希望を聞き、また家族にセンター方式の書式に記入してもらっている。入居後は利用者に寄り添い、安心して暮すことができるように、常に会話や表情から把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのこれ迄の暮らし方生活環境等の把握をし、できる限り今までに近い過ごし方をして頂ける様に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子を観察しその日の心身状態等に依ってその方にふさわしい過ごし方ができる様に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が入居者の方々の情報を共有し一人ひとりのケアのあり方について検討し、よりよいサービスができる様に努めている。	介護計画は全職員が参加して作成している。また、利用者一人ひとりについての気づきを全職員からあげてもらい、見直しに役立っている。個人記録に現状、分析、目標の欄を作り、振り返りを行い、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別毎の記録を作成しその日の様子、バイタル、食事、水分摂取量等記録しており、特変時には事細かく記載する事としている。日勤、夜勤共全員で共有しており計画の見直しにも活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに合わせてられる様できる限りサービスの多機能化の対応に取り組める様にしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に依って安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができる様に活用していきたいと思っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかっていた病院との関係を大切にしながらホームや協力医、家族と共に情報の共有をし納得のいく医療が受けられる様に支援している。尚、かかりつけ医の受診は家族にお願いしてる。	これまでのかかりつけ医に受診をしている。ホームには看護師の職員もおり、担当医、家族との情報共有は密に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは常時情報や気づきを伝える事ができ迅速に対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時介護サマリー、退院時看護サマリーにて情報交換しており利用者が安心して治療できる様又早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し終末期を迎えた利用者の方を見送った事があったのでその時多くの事を学ばせて頂きました。このことを活かしながらのケアに対応したいと思います。	書面にて本人、家族と重度化した場合や終末期のあり方について確認している。利用者の状況に応じ、その都度話し合いを行い、対応している。看取りを一度経験しており、さらなるケアの質の向上を目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は急変や事故発生に備えて応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を6ヶ月毎に行い利用者の誘導が安全に実施されるか地震の場合はどう対応したらよいか等話あっている。又地域との協力体制をお願いしている。	年2回消防署立ち合いで避難誘導、初期消火等の訓練を実施している。利用者と共に職員は全員参加して行っている。居室の表札に搬送方法を掲示しており、自治会会長には災害時の協力を依頼している。	夜間想定等さまざまな場面を想定した訓練を実施し、近隣住民との連携ができてくると、より心強くなると思われる。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーに対しては充分注意を払い個人の人格を尊重している。排泄時、入浴時など配慮した対応をしている。	誇りやプライバシーには利用者を傷つけないよう丁寧な対応を心がけ、利用者一人ひとりのこれまでの生活暦を把握し、尊厳を損ねない言葉かけや行動に配慮し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自分の思いや希望を話せる様な雰囲気を作ってあげ、本人に自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの都合を押し付けるのではなく本人のペースに合わせて過ごし方を決定してもらう様支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時その日の衣服を自分で選びおしゃれができる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に一度入居者と職員で昼食を作る日があり入居者の嗜好品を把握している。入居者の好きな物を順番に作り喜ばれている。準備やかた付けも一緒に行っている。	定期的に外食を楽しむ機会を設けたり、毎日曜日の昼食は利用者と相談し、献立を立て調理している。また、下準備、盛り付けなどには利用者が参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分摂取量の記録をしており定期的に看護師に見てもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行っている。自立の方は声掛けにて、できない方には職員が行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前、お茶の時間前に声かけし誘導しているが一人ひとりのパターンを把握しその方に合わせた自立を支援している。	排泄チェック表で個々のパターンを把握し、声かけや誘導による自立支援をしている。失敗してしまった場合でも、自尊心を損ねないよう、さりげなく対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事時野菜や果物は残さないように摂ってもらう事や水分が足りない時には他の物で補っており便秘にならない様対応している。又散歩や廊下を歩く等個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則として入浴日を決めてはあるが一人ひとりの体調や希望でいつでも入浴できる様に対応している。	基本的に週2回であるが、体調や利用者の希望により、いつでも入浴できる。時には1階にあるデイサービスのお風呂を使用することもある。入浴を拒否する利用者には声かけや、入浴剤等で工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンが違うのでその方に合わせた睡眠時間が摂れる様に対応している。昼食後は短めな午睡を摂って頂くが、その後は散歩やレク等身体を動かし安眠できる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者の薬について目的や用量について理解しており服薬に関してもきちんと飲めたかその後症状の変化がないか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや今まで得意としていた事ができる張り合い等、自己の力を活かした役割を果たす事により気分転換を図れる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物はいつでも対応できる環境にある。花見やバラ園散策等も季節毎に楽しんで頂いている。又夏には地域や本社の祭りに参加し賑やかな昔の頃を思い出して頂いている。その他春秋には好きな物を食べましよう外食に行っている。	毎日散歩に出ている。また、希望に応じて買い物にも出かけているが、職員は利用者と二人になる時間なので思いや希望を聞く機会にしている。初詣、花見、祭など、季節ごとにも外出を企画している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の希望に応じてお金を所持し買い物に行った際、自分で支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者に応じて家族に電話をする事の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには入居者が力を合わせて作った大きなカレンダーを貼りテーブルには中庭や玄関先で摘んだ花を飾り季節を感じて頂いている。又廊下のボードにはレクや外出した時の写真を貼りみなさんに見て頂いている。	全体に明るく、居室、共有空間ともに適温に保たれている。廊下の一角に大きなソファが置かれ、利用者が会話を楽しんだり、横になつてくつろげる場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席は入居者の希望で変えたり外の見えるソファでは独りになって外を見たりと思い思いに過ごせる様な工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた家で使っていた鏡台やいつも見ているアルバム等本人がホームにいても家にいた時と同じ様な雰囲気を作り居心地よく過ごせる様工夫している。	居室は清潔で、家で使っていた鏡台やぬいぐるみを持ってきている人もいる。手すりの代わりに椅子を固定し、移動しやすいように工夫するなど、それぞれが居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口には色分けしたプレートを貼り目印としている。トイレ、洗面所もわかりやすい様にしてあり各場所迄又トイレも手すりが付いているので、安全に自立した生活を送る事ができる。		

【評価機関】